

Z03

C/2002 V1 (NEAT) 彗星の国内多波長同時観測速報

古荘 玲子 (国立天文台)、河北 秀世 (県立ぐんま天文台)、渡部 潤一、大坪 貴文、川端 弘治 (国立天文台)、岡崎 彰、斉藤 将志 (群馬大教育)、長 俊成、小沢 賢司 (東北大理)、石黒 正晃 (宇宙研)、征矢野 隆夫、中田 好一、三戸 洋之 (東大天文センター)、福島 英雄 (国立天文台)、藤井 貢 (藤井-美星観測所)

我々は2003年1月11日ごろより、急速に明るくなりつつあったニート彗星 (C/2002 V1) について、すばる望遠鏡・冷却中間赤外線分光撮像装置 COMICS (Cooled Mid-Infrared Camera and Spectrometer) による 10μ 帯での低分散分光観測と合わせて、国内の複数の望遠鏡および観測装置による可視/近赤外の同時観測を行った。このキャンペーン観測で得られたデータは、可視撮像 (三鷹・社会教育用公開望遠鏡 50cm)、可視分光 (県立ぐんま天文台 65cm および藤井-美星観測所 28cm)、可視偏光分光 (岡山天体物理観測所 91cm) および近赤外撮像 (東大天文センター・木曾観測所シュミット 105cm) である。これらの観測により、すばる望遠鏡で得られた塵の熱輻射スペクトルデータとほぼ同時期の、塵散乱光についての貴重なデータを得ることができた。これらのデータにより、彗星塵の組成や粒径分布に対して、より詳細な議論が可能となる。

本発表では、それぞれの観測結果と解析について速報する。